

社会福祉法人翠燿会

平成 29 年度事業計画書

特別養護老人ホームグリーンヒル
グリーンヒル短期入所生活介護
グリーンヒル居宅介護支援事業
グリーンヒルデイサービスセンター
同上 サテライト南デイホーム
グリーンヒル訪問介護
グリーンヒル福祉タクシー

特別養護老人ホームグリーンヒル八千代台
グリーンヒル八千代台短期入所生活介護
グリーンヒル八千代台居宅介護支援事業
グリーンヒル八千代台小規模多機能型居宅介護
同上 サテライト勝田台
グリーンヒル八千代台訪問介護
グリーンヒル八千代台キッズルーム

障害児通所事業グリーンヒルキッズ

八千代市勝田台地域包括支援センター
介護予防支援事業

平成 29 年 3 月 28 日

社会福祉法人 翠燿会

平成 29 年度 事業計画総括方針案（28 年度総括から）

社会福祉法人 翠耀会
理事長 津川 恵美子

平成 28 年度を振り返り、全体的に稼働も上がったり下がったりと、安定的ではなかったという事が認識できる。

職員の確保、利用者の確保、どちらも大変な時代に入ってきたことを感じる。

職員確保については、新しい試みとして、昨年夏のベトナム訪問により、4名の若い女性をスタッフとして受け入れる予定である。勤務開始は9月の予定であり、今後毎年4名程度のベトナム人のスタッフを受け入れ可能か否かも見極めていくことになる。

相変わらずの人材不足であり、また人材会社からしか、ほとんどスタッフが集まってこない現状である。

その様な中で、職員はできることをコツコツと続けてくれたことを思う。

また、昨年は、介護報酬の多額の未請求分が発覚し、年度内に回収できたものの、チェックの甘さは反省すべき点であり、今後この様なことが二度と起きないように、担当職員は注意深く、確認を数名で行ってほしい。

昨年3月から開始した放課後等デイサービス「グリーンヒルキッズ」は、4～6月の利用児童1名、7月からは着々と登録が増え、平成29年度の4月からは登録20名となり、定員である10名程度の児童が毎日通ってくる予定である。

この1年に市内にも数件の同業者が増えたが、他事業所とは一線を画している。グリーンヒルキッズは、内容的には実生活に本当の意味で役立つ「ソーシャルスキル」と「学習」を中心に進めており、市内でも一定の評価を得ているものと推察される。

利用児童が増えてきた昨年11月からは月に1回の「父母の会」を開始し、毎回7～8名のお母様方が参加して下さり、茶菓でなごやかな時間を過ごしている。お母様方にとっては、この2時間程度の茶話会が大きなサポートとなり、また、孤立しがちな母親同士を結びつける場となっており、会の終了後も連れ立ち昼食に向かう姿が見られる。

現在、(月)～(金)の稼働であるが、平成29年度は(土)も稼働できる方向で進めていきたい。また、絵画・音楽等、芸術的な内容も付加していきたいと考えている。

また、SST(ソーシャルスキルトレーニング)等の、講習会や講話なども年に数回開催していきたいと考える。

平成29年度4月より社会福祉法人の大改革が行われようとしている。今後、ますます社会福祉法人の役割が大きくなり、地域に向けた社会福祉法人ならではの活動が期待される。

今後については「子ども食堂」「学習支援」等を通して、社会福祉充実計画を実施していきたい。

また、児童養護施設の公募がないとすれば、児童養護施設退園後の18～20歳の青年を受け入れ、サポートする自立援助ホームを設立し、社会的養護の必要な若者の未来をサポートしていきたいと考える。

そして、広義においては、高齢者、障害をもった方々、青少年とバリアフリーな居場所づくりを目指していきたい。

以上

活動方針総括案(報告並びに今後の課題と計画素案)

社会福祉法人 翠燿会 常務理事 津川 康二

高齢者の福祉介護を取り巻く状況は、昨年来内部留保問題に端を発し、社会福祉法人への課税問題、特別養護老人ホームの収益への批判等が繰り返され、現在社会福祉法人改革が進められ、又、地域包括ケアシステムの構築実現を目指して介護保険制度の改正、これらを踏まえた制度発足以来極めて厳しい介護報酬のマイナス改定がおこなわれました。これまでにない変革の時代を迎え、社会福祉法人改革、各事業の見直しが迫られています。

このような状況下にあつて、特に2025年にむけた指針(地域包括ケアシステム)を理解し、グリーンヒル、グリーンヒル八千代台の2拠点が、地域の福祉・介護サービスの中核となり、ご利用者が期待する、在宅を中心としたサービスから施設サービスまでの提供を実施いたします。

そのためには、この厳しい変化の時代にあつて「法人の安定した経営」「ご利用者、ご家族に満足いただけるサービスの徹底」「介護人材の確保と育成」「社会福祉法人の在り方の再構築」を中心に本年度も、ご利用者、ご家族、そして地域から信頼される法人を目指してまいります。

重点施策

- 1 介護保険制度改正に向けた対応～地域包括ケアシステム構築～
- 2 介護報酬改定の分析と対応
 - ・中重度の要介護者、認知症高齢者への対応
 - ・リハビリテーションへの推進
 - ・看取り介護の充実
 - ・口腔ケアの取り組みの強化
- 3 社会福祉法人制度改革への対応
 - ・社会福祉法人のガバナンス強化に向けての取り組みを行う。
 - (1) 経営組織のガバナンスの強化
 - (2) 事業経営の透明化の向上
 - (3) 財務規律の強化
 - (4) 地域における公益的な取り組みを実施する責務
- 4 人材の確保、育成、定着対策への一層の強化
 - ・職員のキャリアアップ制度充実
 - ・研修強化、外国労働者受け入れ
- 5 地域包括支援センターを含めた、予防給付(訪問、通所など)の地域支援事業移行の対応
- 6 医療、介護の連携強化
- 7 認知症ケア、並びに生活支援サービス等への強化
- 8 高齢者の権利擁護、虐待防止に向けた強化
- 9 予算管理徹底と、総務課事業の再構築
- 10 特別養護老人ホームグリーンヒル建替え

【平成 29 年度 事業計画】
特別養護老人ホーム グリーン・ヒル
短期入所生活介護 グリーンヒル

1. 目標稼働・目標施策

- ・稼働率（長期＋短期）毎月 117 名以上の稼働・迅速な空床利用。
- ・日常生活継続支援加算の算定継続（36 単位/日）
⇒認知症自立度Ⅲ以上もしくは要介護 4・5 割合の要件を満たす。
- ・看取り介護加算の算定継続。
- ・療養食に該当するご利用者を主治医と検討し適切な加算の算定の実施。
（18 単位/日）
- ・口腔衛生管理体制加算の算定継続。（30 単位/月）
- ・経口維持加算・経口移行加算の算定。
- ・認知症専門ケア加算の要件となる認知症介護実践リーダー研修への役職者の参加。（3 単位/日）⇒平成 30 年度より算定予定

SS ・サービス提供体制強化加算 I の算定（18 単位/日）

⇒常勤換算における介護福祉士の占める割合が 60%以上を満たす。

2. 組織体制の強化

- ① 生活向上委員会により、看護師・栄養士・理学療法士・介護職員間での連携を深め、現在のオムツ着用率 60%から 29 年度は 50%を目標とする。
- ② 教育研修委員会による施設内研修の実施から職員教育の向上を図る。
- ③ 法人の事業所（勝田台包括・居宅介護支援事業所・通所介護・訪問介護・グリーンヒル八千代台等）と円滑に連携を図り常にご利用者の利益を優先していく。
- ④ 介護計画書の書式に基づきご利用者へのケア内容の充足。
- ⑤ ホスピタリティケアを重点とし職員教育と質の向上を目指す。
- ⑥ 機能訓練指導員（理学療法士）の残存機能の維持・向上の普及における相乗効果を図る。
- ⑦ 居室の環境を整備し、多床室での生活に潤いを提供する。
- ⑧ 多職種協働を強固なものとし体調不良のご利用者の早期発見、俊敏な対応による入院者の低減、ターミナルケアの確立。
- ⑨ 総務課との連携により、迅速な介護職員の確保（職員体制の確保）

グリーンヒル医務課 グリーンヒル八千代台医務課

—H29年度看護方針—

I. 看護理念

1. ご利用者が「その人らしく」生活できるように、予防、予測をもった看護を提供し、健康管理を行います。
2. 多職種との協働、情報の共有をし、安全、安心な看護、介護の提供を行い、生活の質の向上に努めます。

II. 重点施策

各ユニット毎を担当制とし、会議・委員会へ参加して情報共有しケアに生かす。アセスメントツールに基づき利用者の全体像（身体面・心理面など）を把握する。介護職員へは、指示内容や依頼事項をわかりやすい表現で伝達し、利用者へのケアを充実する。

1-1) ケアプラン遂行の協力

ユニット会議・委員会への出席（生活向上委員会・入浴）必要時、受け持ちNsによる看護計画作成・・・KOMIチャートでアセスメントした「解決すべき問題」だけでなく、その人の「持てる力」や「健康な力」を活用する方法も援助計画に入れていく。

KOMIケア学会に参加し、参加者を中心に勉強会・伝達講習などを行う。

2) 健康管理

① 食事 嚥食状況と量の把握をし、できる限り経口による嚥食を促し、食事形態の検討を行う。（東京歯科大・栄養科・CWとの連携）マウスケア、義歯装着の徹底を働きかける。胃瘻管理（管挿入周囲の皮膚の清潔管理も含む）、可能性がある場合は経口移行への取り組み。

② 入浴 清潔保持、リラクゼーションを目的とした最低週2回の入浴設定を励行。全身状態によっては回数を増やし、その状態に適した保清方法の指示を行う。（目脂の除去、手浴、足浴など）皮膚の状態を観察し、状態に適した処置を行う。

③ 排泄 個人に合った排泄のあり方を考え、効果的な下剤使用の検討を行う。便秘の定義（3～4日以上排便がない場合）に従い、処置を行う。十分な水分摂取、運動、腹壁のマッサージの推奨などを基本として指導する。生活向上委員会で行っているおむつ外し（ポータブル便器使用、トイレでの排泄）の協力、検討。

④ 服薬管理 定期薬処方・臨時薬処方の管理を行い、日々の内服薬が正しく与薬されるようにする。各ユニット毎に与薬車を運び、日々の受け持ちNsが配薬し、他のNsがダブルチェックを行う。麻薬使用時の管理（取り扱い基準に準ずる）

⑤ 感染管理基本：うがい・手洗いの励行 予防接種 — インフルエンザ（時期）感冒 — マウスケア・衣類調節・換気 ウイルス性腸炎 — 環境整備（次亜鉛素

酸Na使用)・吐物などの汚物処理方法の指示。

3) 看取り看護・介護の実施

入居者本人・ご家族の希望で看取りが決定した場合、安らかな最期が迎えられるよう援助を行う。看取りを行う上でのハード・ソフト面でのあり方について介護職員との勉強会を行う。看取り後、振り返りアンケートをご家族にも協力してもらい、振り返りカンファレンスで共有する。入居者・ご家族への心配り、慰労する姿勢で対応する。医療者ではない介護職への声掛けも行う。

2-1) 協力医療機関との連携

嘱託医診療介助 — 週2回の回診(利用者診察・定期処方・必要時検査指示)
(八千代台・・・2週1回)

入所時検査の実施 — 採血・尿・心電図・胸部レントゲン・その他

入居者定期健康診断 — 年1回

急病時の対応 — 指示処方薬の使用→受診(外来Nsへ電話し、受け入れ状態の確認をする)

関連病院との情報交換→セントマーガレット病院・グリーンヒル合同会議参加

2) 栄養マネジメントの実施

① 栄養スクリーニングの実施(3カ月毎)

② 低栄養改善の為、栄養士と連携し対策を立てる。

③ 療養食の実施

3) 理学療法士・作業療法士との連携

① 離床促進、ポジショニングの検討、うつ伏せ寝による排痰促進

② 補助具の必要性の検討

③ 褥瘡予防対策

4) 短期入所者への対応

受け入れ時の対応 — 健康チェック・排便管理・在宅かかりつけ医・ケアマネとの連携 例外を除き病状の安定している方の入所を基本としたい。

5) 職員の健康管理

体調不良時の相談、健康不具合時の受診アドバイス

インフルエンザ予防接種実施

6) その他

医療機器管理 — AEDチェック、酸素ボンベ点検、吸引器点検・消毒、救急パック点検(オレンジパック)・・・支援センター、2階寮母コーナーへ設置

自己研鑽 — 研修参加

経済性をもつ — 医療材料を的確に使用し、無駄遣いをしない。購入時も無駄のないように考える。

平成29年度 栄養課事業計画

グリーンヒル栄養管理室 グリーンヒル八千代台栄養管理室

平成29年度事業計画策定にあたり、給食運営及び栄養管理の展望と方向性

・栄養課理念

- ・ご利用者の健康状態や身体状況に応じた栄養管理（栄養ケア・マネジメント）サービスを多職種と協力して行い、個人にあったADLの維持・向上に努めます。
- ・ご利用者にふさわしく安全で質の高い食事サービスを提供します。

・給食運営の展望

- ・グリーンヒル特養・通所（セントラルキッチン）、グリーンヒル八千代台特養（サテライトキッチン）、調理はクックチル方式、八千代台小規模多機能、調理はクックサーブ方式を継続。
- ・給食業務委託契約方式を更新する。{クックサーブは直営方式を継続}
- ・給食経営管理と労務（ヒト）、食材（モノ）の運営費（カネ）を全面委託方式及び直営方式を継続する。

・利用者の栄養管理（介護報酬加算）

- ・栄養ケア・マネジメント加算 14単位1日につきGH予算110名GH・Y予算29名
- ・療養食加算 18単位1日につきGH予算30名GH・Y予算5名
- ・経口維持加算Ⅰ 400単位1日につきGH予算70名GH・Y予算29名
- ・経口維持加算Ⅱ 100単位1日につきGH予算50名GH・Y予算29名

※要件、利用者1名併算定加算が可能、但し、栄養ケア・マネジメント加算を算定していない場合は、すべて加算しない。

・臨地実習実施（グリーンヒル栄養管理室）

- ・老人福祉施設における「給食経営管理」
聖徳大学人間栄養学部 3学年、昭和女子大学生生活科学部 3学年

・多職種の連携

- ・介護職、看護職、PT、OT、栄養士、歯科医師、歯科衛生士、施設介護支援専門員などが連携して、利用者のホスピタルフードサービスの向上に努める。
- ・栄養委員会(給食会議、NCM会議)定例第3木曜日、12回/年
- ・災害時発生時の対応マニュアルに準拠する
- ・食中毒発生時の対応マニュアルに準拠する
- ・衛生安全管理の対応大量調理施設マニュアルに準ずる

以上

【平成 29 年度 事業計画】グリーンヒル居宅介護支援事業所

目標

- ・ケアプラン数・・・110 件（介護給付）
30 件（予防・総合事業受託）
- ・処遇困難ケース受け入れ及び 24 時間対応
・・・地域包括からの依頼により受け入れ、対応にあたる
（特定加算Ⅱを取得）
- ・利用者の立場にたった公正中立の姿勢の確立
・・・偏った事業所へのサービス調整を行わない
（集中減算にならない）
- ・情報共有の強化及び個々のスキルアップ
・・・定例会議（月 1 回）
処遇検討会議（週 1 回）
事業所内研修（月 1 回）
外部研修
- ・認定調査受託・・・八千代市、船橋市、他市町村・・・8 件/月
- ・その他・・・法人行事支援（納涼会、敬老会等）

平成29年度 通所介護事業計画

1. 基本理念

【ハートフル・デイサービス】

手から手 心から心 笑顔とやすらぎを

事業目標

2グループで、グループケアを継続し、一人一人が過ごしやすい環境を提供する。個別のプログラムや、個別の機能訓練など、小グループで行うプログラムを充実させることや、男性ご利用者へのリハビリプログラムのアプローチなど、個別に特化したサービスの提供を行う。 利用時間など、受け入れの窓口を広げ、多くのご利用者の獲得を目指す。

グループケア

実りグループ・きらりグループ・の2グループにて行う。

① サービス内容

1) 送迎・食事・入浴・個別機能訓練・口腔ケア・栄養改善・季節行事

② 利用対象者

1) 介護認定において要介護状態であると認定された方

(要支援1・2 要介護度1～5)

2) 八千代市全域・佐倉市西部・千葉市花見川区北部地域の方

③ 営業時間

・月曜～土曜(祝日を含む) 8時30分～17時30分

・サービス提供時間 9時45分～16時15分

④ 利用定員

・定員 1日37名

・目標人数 1日27名

⑤ 職員配置

・施設長 1名 ・課長 1名 ・相談員 2名

・介護職員 13名(常勤6 非常勤7名)

・看護師 2名 ・作業療法士 1名 ・柔道整復社 1名

⑥ 会議、ケアカンファレンス

・リーダー会議、全体会議、各月1回

・個人ケースカンファレンス(全体会議にて)

平成29年度 通所介護 サテライト南デイホーム事業計画

1. 基本理念

【ハートフル・デイサービス】

手から手 心から心 笑顔とやすらぎを

事業目標

民家型デイサービスの家庭的な環境で、少人数で落ち着いた状況で過ごしていただく。少人数の特権を活かし、ちょっとした外出や、買い物・散歩などその日その時にあったサービスを提供する。また、ゲーム・脳トレ・手芸など、少人数で楽しんでいただけるプログラムの提供などを充実し、ご利用者の獲得を目指す。

① サービス内容

1) 送迎・食事・入浴・季節行事

② 利用対象者

1) 介護認定において要介護状態であると認定された方
(要支援1・2 要介護度1～5)

2) 八千代市全域

③ 営業時間

・月曜～金曜（祝日を含む） 8時30分～17時30分
・サービス提供時間 9時45分～16時15分

④ 利用定員

・定員 1日9名
・目標人数 1日6名

⑤ 職員配置

・管理者1名（本体と兼務） ・相談員1名（本体と兼務）
・介護職員 4名（常勤1名 非常勤3名）

⑥ 会議、ケアカンファレンス

・全体会議、月1回
・個人ケースカンファレンス（全体会議にて）

平成29年度 グリーンヒル指定訪問介護 事業計画

1. サービスの重点目標

- 1) 訪問介護サービスマニュアル『ハート・トゥ・ハート』に沿ったサービスの提供。
 - ・法人の理念である「グリーンヒルの心」を常に心がける。
 - ・ヘルパーとしての対人関係形成・観察力・介護技術力・緊急時、災害時などの適切な対応。
 - ・利用者及び関係者のプライバシー・個人情報の管理。 また、ご自宅の鍵預かりの厳重管理。
 - ・予防給付における、地域支援事業移行への対応。
- 2) ヘルパーとしての介護技術向上を目的とした研修の実施。
 - ・毎月1回の定期研修にヘルパー全員の参加を促す。
 - ・学びたい項目ごとに個別研修を実施する。
 - 移動・移乗の方法
 - 排泄介助・清拭の方法
 - 嚥下困難者に対する介護
 - 認知症介護
 - 感染症の具体的な予防について
 - 緊急時、災害時の対応
 - その他の項目
 - ・ヘルパーによってサービス方法が変わらないよう提供サービスの均一化を図る。
- 3) 安全な移送サービス、通院等乗降介助の実施。
 - ・法人職員としての自覚をもち、防衛運転に努める。
 - ・利用者が安心して医療機関に受診できるよう身体の状態、家屋の状況、家族関係を把握した上で移送及び乗降介助を行う。
 - ・運行車両の日常点検を行い、保安基準を満たした運行に努める。

2. サービスの内容

- 介護サービス（身体介護 ・生活援助 ・通院等乗降介助）
 - 介護予防サービス
 - 介護輸送サービス
 - 日常生活支援総合事業（訪問型サービス）
3. 利用対象者：要支援・要介護認定において、要支援1・2または要介護状態であると認定された高齢者
 4. 営業日：月曜日から土曜日まで（平成29年度：年間310日）
8：30～17：30までを基本とし、利用者のニーズに対応するため、時間外についても柔軟に対応する。
 5. 利用者数：1ヵ月目標85名（通院等乗降介助を含む）・介護輸送（運賃）25件
 6. 職員配置：管理者1名、サービス提供責任者3名、訪問介護員11名
 7. 会議：
 - ・全体定例会議及び研修会 毎月末ごろ17：30～18：30
 - ・サービス提供責任者会議 随時
 - ・グリーンヒル八千代台訪問介護との合同会議 随時

平成29年度 グリーンヒル八千代台居宅介護支援

事業計画書

1. 事業所名称
社会福祉法人 翠耀会
グリーンヒル八千代台居宅介護支援
2. 運営の方針
 - ・当事業所の介護支援専門員は、要介護者等の心身の特性を踏まえて、その有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう配慮し行います。
 - ・事業の実施は、利用者の選択に基づき、多様なサービス事業所から総合的・効率的に提供されるよう配慮し行います。
 - ・事業は、常に利用者の立場に立ち、公正中立に行います。
 - ・事業の運営に当たっては、関係市町村、サービス提供事業者等との綿密な連携に努めます。
3. サービスの内容
 - 1) 利用の申込相談
 - 2) 居宅介護支援事業所の内容説明
 - 3) 契約締結
 - 4) 要介護認定の確認（未申請の場合は申請手続きの支援）
 - 5) 訪問調査
 - 6) 居宅サービス計画の作成・説明及び同意
 - 7) 居宅サービスの提供
 - 8) 居宅サービス実施内容の経過観察、再評価
 - 9) 次回要介護認定手続きの支援
4. 利用対象者
要支援（介護予防）、要介護の介護認定を受けた、介護保険証を所持の方
5. 営業日時
平日 午前8時30分から午後5時30分
祝日 午前8時30分から午後5時30分
休業 土曜・日曜および12月31日から1月3日
6. 利用定員
要介護認定者 約95名
7. 職員配置
管理者 1名（兼）主任介護支援専門員1名 介護支援専門員2名
8. 会議
定例事業所会議 毎週火曜日 午前 9時00分より ※開催日変更あり
9. 行事等
併設、特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護事業所等の行事支援
10. 研修等
介護支援専門員現任研修、認定調査員研修、やちよケアマネネットワーク開催研修、関係機関開催研修に参加、介護支援専門員実務者研修の実習受け入れ

会議・研修計画 (案)

平成29年 (平成30年度改正介護保険法の動向を確認、居宅は八千代市へ移行)

- 4月 : 定例会議、事例検証 4月11日
: 事業所倫理規定、個人情報の取り扱い、防災(居宅として)
- 5月 : 定例会議、事例検証 5月9日
: 事業計画
- 6月 : 定例会議、事例検証 6月13日
: 介護サービス計画の全体的評価
- 7月 : 定例会議、事例検証 7月11日(本部事業所との合同)
: 認知症介護
- 8月 : 定例会議、事例検証 8月8日
: 情報開示
- 9月 : 定例会議、事例検証 9月12日
: 福祉用具
- 10月 : 定例会議、事例検証 10月10日
: 居宅介護支援記録
- 11月 : 定例会議、事例検証 11月14日(本部事業所との合同)
: 高齢者虐待
- 12月 : 定例会議、事例検証 12月12日
: 住宅改修

平成30年

- 1月 : 定例会議、事例検証 1月9日
: 困難事例等検証
- 2月 : 定例会議、事例検証 2月13日(本部事業所との合同)
: 支援のあり方
- 3月 : 定例会議、事例検証 3月13日
: 事業計画の達成(次年度に向けて)

- 注) 1 各月研修内容は、法令等の改正により変更あり。
2 外部研修受講により、受講内容の伝達研修の実施。

1. 目標稼働・目標施策

- ①稼働率 a. 月 27.5 名以上の稼働 b. 年間稼働率 95%目標
- ②認知症加算の算定 a. 認知症加算(Ⅰ)800 単位/月 b. 認知症加算(Ⅱ)500 単位/月
- ③看護職員配置(Ⅰ)加算の算定継続 900 単位/月
- ④訪問体制強化加算の算定 1000 単位/月 1ヶ月あたり延べ訪問回数 200 回以上
- ⑤総合マネジメント体制強化加算の算定
- ⑥サービス提供体制強化加算(Ⅱ)の算定 350 単位/月

2. 組織・業務体制のイノベーション

- ①日常生活圏域内の、要援護者の様態や希望に応じて、「通い」「訪問」「宿泊」および多様なニーズに対応する機能を組み合わせてサービスを提供することで、住み慣れた地域での生活が継続できるよう支援する。
- ②地域包括ケアシステムのコア拠点としての担い手となる。基本サービスに加え、配食・見守り・地域交流・家族支援等のニーズに対応した支援の実施、サテライトとの協働による極め細やかに日常生活を支える面的仕組みの強化。
- ③事業所内の他部署（特養・SS・居宅介護支援・訪問介護・栄養課・キッズルーム）法人本部（特養・SS・通所介護・居宅介護支援など）や勝田台地域包括支援センター、八千代台地域包括支援センターとの多職種連携・協働を強化・実行。
- ④アセスメント・カンファレンス・サービス計画書・モニタリングの流れ（体制）の充実[ライフサポートプランの活用]と、それに基づいた日々の介護提供（PDCA サイクル）意見交換を実施、ケアの統一を図る。
- ⑤情報の発信側と受信側が共に連絡ノート等を通して〈伝える・聞く・聞いてもらう〉ということに意識をもって行ない、各自の努力も行なう。ケースファイルは特養が使用している書式に統一していき、共通認識を図れるようにしていく。
- ⑥ケアプランに意識を持ち、プランを活かした関わりが持てるように、報告・連絡・相談の強化
- ⑦全体での会議は、事前に個々の職員から問題点や改善等の意見を聴取し、自分の出した意見について会議の場で発言していくとともに、各担当ご利用者の様子などを介護職員側から発言し、計画作成担当者からは意見や方法等の意見を出してもらい、まとめて行く形での会議形式としていく。
- ⑧多量な情報の整理をおこない、話し合っ適切な情報に整理することにより、情報の把握につなげる。
- ⑨インシデントなどがあがってきた報告については原因要因に目を向け、回避に向け話し合いをしていく。
- ⑩研修など参加した職員がその内容を回覧したり会議の場で報告し、他の職員は学ぶ意識をもって実践の場でスキルアップできるよう努める。外部との会議内容については、議事録等を確認し参加職員へ積極的に質問等を行ない、把握に努めていく。
- ⑪プライバシー・個人情報・身体拘束・虐待について、実践的な部分を明確にし、各個人がしっかりと意識を持ち共通認識を図っていく。
- ⑫平成 30 年の医療と介護の同時改定に向け、将来像を見据え、小規模多機能型居宅介護のサービス提供のあり方の検討を行い地域の拠点としての役割を目指す
- ⑬包括ケアシステムにおける地域拠点として登録者のみならず地域の安心拠点としての役割を果たしていくための地域活動を行っていく。

3. グリーンヒル八千代台 10 周年記念及びサテライト勝田台 5 周年記念の実施

- ①記念公演 ②地域住民(ボランティア関連)の方々との交流

今後も地域と共に歩む施設としてサテライト事業所と合同で 10 周年及び 5 周年記念を開催する。

1. 目標稼働・目標施策

- ①稼働率 a. 月 11.5 名以上の稼働 b. 年間稼働率 98%目標
- ②認知症加算の算定 a. 認知症加算(I)800 単位/月 b. 認知症加算(II)500 単位/月
- ③訪問体制強化加算の算定 1000 単位/月 1ヶ月あたり延べ訪問回数 200 回以上
- ④総合マネジメント体制強化加算の算定
- ⑤サービス提供体制強化加算(II)の算定 350 単位/月

2. 組織・業務体制のイノベーション

- ①日常生活圏域内の、要介護者の様態や希望に応じて、「通い」「訪問」「宿泊」および多様なニーズに対応する機能を組み合わせてサービスを提供することで、住み慣れた地域での生活が継続できるよう支援する。
- ②地域包括ケアシステムのコア拠点としての担い手となる。
基本サービスに加え、配食・見守り・地域交流・家族支援等のニーズに対応した支援の実施し、本体(八千代台)との協働によるきめ細かに日常生活を支える面的仕組みの強化。
- ③アセスメント・カンファレンス・サービス計画書・モニタリングの流れ(体制)の充実と、それに基づいた日々の介護提供(PDCA サイクル) [ライフサポートプランの活用]
- ④ご利用者との日々のコミュニケーションの中で小さなことでも日誌等に記載し多職種会議(看護師・管理栄養士・計画作成担当者・介護職)にて話し合い、ご利用者さんのニーズに沿ったケアを行ってまいります。
- ⑤事業の他部署(特養・SS・居宅介護支援・訪問介護・栄養課・キッズルーム)・法人本部(特養・短期・通所介護・居宅介護支援など)や勝田台地域包括支援センター、八千代台地域包括支援センターとの多職種連携・協働を強化・実行。
- ⑥地域サークルへの参加機会の確保や地域行事にも積極的に参加していくとともに、地域拠点として活動内容がわかるように展示会などを実施し地域との関わりがもっていけるように支援する
- ⑦エコキャップやベルマークなどを集めて学校や幼稚園などに訪問に行き交流の機会を確保していくと共に手芸教室など地域の方々が集えるような活動を行っていく
- ⑧包括ケアシステムにおける地域拠点として登録者のみならず地域の安心拠点としての役割を果たしていくための地域活動を行っていく
- ⑨適切な環境整備の実施(事業所内の配置等)を定期的に見直し適切な環境にしていく共にご利用者がわかりやすいように配置等おこなう(物理的構造化及び視覚的構造化)
- ⑩プライバシー・個人情報・身体拘束・虐待について実践的な部分を明確にし、共通認識を図るより明確なマニュアルの作成及び研修の実施
- ⑪地域で必要とされる拠点となるために、八千代市社会福祉協議会勝田台支会(推進委員)メンバーとなり、地域活動への参画をおこなう
- ⑫包括ケアシステムにおける地域拠点として登録者のみならず地域の安心拠点としての役割を果たしていくための地域活動を行っていく。

3. グリーンヒル八千代台 10 周年記念及びサテライト勝田台 5 周年記念の実施

- ①記念公演 ②地域住民(ボランティア関連)の方々との交流
- 今後も地域と共に歩む施設として本体事業所と合同で 5 周年記念を開催する。

【平成29年度 事業計画】
放課後等デイサービス グリーンヒルキッズ

1. 目標稼働・目標施策

- ①稼働率 a. 月200回以上の稼働 b. 年間稼働率100%目標
- ②児童発達支援管理責任者専従体制加算の算定 205 単位/日
- ③有資格者配置加算 授業後 4 単位/日 休日 6 単位/日

2. 事業所の重点目標

- ①障害者虐待防止法を遵守し、利用者一人一人に寄り添った支援を行う。
- ②支援の情報共有を図るため、職員間で話しやすい雰囲気をつくる。
- ③利用児童が楽しいと思える環境を整え、児童との共感を常に忘れずに、笑顔の絶えない、明るく、楽しい職場づくりに努める。
- ④父母の会の開催や外出体験等、家族と一緒にいる活動を提案し、家族支援を含め総合的な観点から支援を行う。
- ⑤ 障害への専門性をもち、児童、保護者の立場を考えた適切な支援を行う。

3. 支援等の具体的内容

- ①遊びを通じた療育活動 運動活動 学習活動 音楽活動 創作活動 各種体験活動 健康管理を行い、日常生活の中での助言、相談 他の福祉サービスの情報提供・サービスの利用方法の助言を行い、関係機関や学校と連携し個別支援計画を作成し、実施する。
- ②イベントを通じて地域交流・地域貢献の機会を設け、家族と協働した活動の提案や福祉施設の持つ資源を地域に還元していく。
- ③交流デイキャンプ等を通じ、利用児童を支える家族に対する相談・支援を行い、ニーズを理解し、あるいはサービスに対しての疑問等の解消に努める。

4. 関係機関との連携

- ・事業の実施にあたっては、下記の機関と連携を密にし、利用者の適切な支援とサービスの提供に努める。（当該市子ども相談センター及び児童相談所、学校、相談支援事業所その他の放課後等デイサービス事業所や福祉サービス事業所等）
- ・法人内他事業所との連携体制を構築する。
- ・ブログ等を通じ、活動内容・状況等についての発信を行う。

5. 緊急時の対応および安全管理

サービス提供時の利用児童の安全・病状の変化・事故等については下記のとおり、適切な対応に努める。

- ・人材安定確保に努め、できるだけ多くの児童に対してサービス利用ができるようにする。
- ・長期休業中の利用時間延長にともない、児童の混乱がないようにプログラムに配慮する。
- ・人材不足の解消に努め、安全なサービス提供と運営に努める
- ・避難訓練(防災・防犯)を月1回定期的実施し、利用者職員との混乱を緩和し、迅速に対応できるように訓練する。

以上

平成 29 年度 勝田台地域包括支援センター 事業計画

1. 重点目標

- ・勝田台地域の高齢者が、安心して生活ができるよう様々な相談や課題に対し、専門性を活かしながらチームアプローチにより包括的に支援できるように努める。
- ・「地域包括ケアシステム」の構築に向けて、地域団体や専門機関と連携を取りながら、地域の身近な相談機関となれるよう努める。

2. 業務内容

1) 総合相談支援業務

- ・地域包括支援センターの啓蒙
- ・高齢者の総合的な相談支援

2) 権利擁護業務

- ・高齢者虐待予防及び支援
- ・消費者被害等の予防及び支援
- ・成年後見人についての啓蒙及び支援

3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- ・地域包括支援センター主催事例検討会
- ・地域ケア会議（適時開催）
- ・自治会・老人会・民生委員・地域住民サークル等への地域包括センターの啓蒙
- ・勝田台三世代交流夏祭り協力
- ・認知症サポーター養成講座
- ・勝田台サロン・お番茶の会後方支援協力
- ・わがまち元気プロジェクトin勝田台（総合事業の視点で地域づくり）
- ・八千代高校（福祉体験授業・クリスマス会・地域マップ作り）協力及び共催等

4) 介護予防ケアマネジメント業務

要支援 1・2 の方や総合事業対象者のケアプラン作成

5) 介護予防普及啓発事業

介護予防教室「いきいき教室」年 15 回実施予定（5 月・7 月・9 月・11 月）

3. 関係機関連携のための会議

- ・地域包括支援センター各専門職会議（管理者・主任ケアマネ・社会福祉士・看護師）
- ・八千代市生活支援体制整備事業協議体会議・認知症初期集中支援チーム検討委員会
- ・民生・児童委員会会議・八千代市高齢者虐待防止連絡会
- ・運営推進会議（グループホーム・サテライト勝田台・元気庵）
- ・法人各種会議 他

4. 研修

- ・千葉県地域包括支援センター職員現任研修
- ・千葉県高齢者虐待防止対策研修
- ・千葉県認知症対策推進セミナー
- ・八千代市ケアマネネットワーク 研修
- ・八千代市サービス事業所協議会研修
- ・法人研修 他

5. その他

- ・実習生受け入れ・・・東京成徳大学・江戸川大学総合福祉専門学校

- I 外国人技能実習生受け入れに向けて、技能習得が円滑に進むように関連部署と連携しながら取り組む。また、帰国するまでの日本滞在期間中に安心・安全に過ごせるように生活支援を行う。
- II 経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）に関する、有効活用・経費削減・適正管理を行う。

- I プロジェクトチームを編成し介護業務の習得や日常生活全般の支援を行う。
 - 職員とのコミュニケーションづくり
 - 指導日程 指導方法 指導担当者の選出 職場環境整備 他
 - 安心・安全な生活環境の提供（生活習慣の理解 住環境整備 他）
- II 「資金（カネ）」の適正管理
 - 定期的な取引がある業者の取引価格を見直し、適正化を図る。
 - サービス事業ごとに毎月の収支状況を把握し、管理運営会議にて明確な報告を行い、適正な経営状態を目指す。